

【樹木・草花の部屋】

サルスベリ（ミソハギ科サルスベリ属 *Lagerstroemia indica*）

サルスベリは、和名は百日紅、ミソハギ科の落葉中高木。花が美しく、耐病性もあり、必要以上に大きくならないため、しばしば好んで庭や公園などに植えられています。



← **写真－１** ムラサキサルスベリ
の花

撮影日：２０１２年８月５日

撮影場所：滋賀県大津市
T邸にて

<撮影者コメント>

サルスベリの花です。紫の花です。この紫のサルスベリは、樹勢が強く毎年多くの花が咲きます。

主な世話は、夏の花木ですので暑くなったら、水やりは朝、晩しっかりやること。肥料もしっかりやると、よく花が咲きます。サルスベリは、葉が出るのが遅いです。５月くらいから葉が出てきます。花芽が出るのは、７月下旬ころから。秋から冬にかけては、カイガラ虫がよく付きます。ほっておくとスス病も併発しますので、カイガラ虫をみつけたら、まめにブラシや手で掻き落として、殺虫剤をまたはマシン油を塗布しておきます。最近はサルスベリの花色が多くなっています（白、赤、ピンク、紫、赤白など）ので、楽しいです。花期も長く育てやすいです。

写真－２ サルスベリの葉 →

撮影日：２０１２年５月１３日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

葉は通常２対互生（コクサギ型葉序 右右左左の順）、対生になることもあります。



【樹木・草花の部屋】



←写真-3 サルスベリの幹肌

撮影日：2012年6月10日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

<<ちょっと一言>>

樹皮がはがれていく様子や感触の似たナツツバキやリョウブをサルスベリと呼ぶ地方もあるそうです。

サルスベリ属の代表的種類は

- サルスベリ (*Lagerstroemia indica*) 中国南部を原産とする夏を代表する花木の一つで、冬は落葉します。日本にやってきた正確な時代は不明ですが、大和本草*(1708年)に載っているところから、それ以前だと考えられます。
- オオバナサルスベリ (バナバ、*Lagerstroemia speciosa*) 熱帯アジアからオーストラリアに分布、ジャワザクラとも呼ばれます。名前の通り径 7cm 前後の大きな花を咲かせます。花色は紅紫もしくは白。葉を「バナバ茶」として飲用する。
- シマサルスベリ (*Lagerstroemia subcostata*) - 日本の南西諸島に自生。台湾サルスベリとも呼ばれます。屋久島から台湾にかけて分布。樹皮は赤褐色で花色は白です。耐寒性があり、平地では並木などにも利用されます。
ムラサキサルスベリはサルスベリとシマサルスベリをかけ合せて作られたものです。

*大和本草

『大和本草』（やまとほんぞう）は貝原益軒が編纂した本草書である。1709年（宝永7年）に刊行された。益軒は『本草綱目』の分類方法をもとに独自の分類を考案し編纂、収載された品目は1,362種、本編16巻に付録2巻、図譜3巻、計21巻

百日紅 大和本草より該当の部分引用

紫薇花トモ云 モロコシノ禁中ニ多ク此花ヲウフルヨシ 三才図絵ニ見エタリ 此木皮ナシ故ニ和名サルスベリト云 六月ヨリ花開ル一百日ハカリ其樹ノ本ヲ久シクカケハ枝背ウゴク故ニ本州ニ異名怕痒樹トイフ蛾其ツホミヲクラヘハ花サカス 又白花アリ稀也 凡花ノ久シク開ル一百日紅ヲ第一トスヘシ 次ニ山茶花（ツハキ）海紅（サザンクハ）木瓜（ボケ）躑躅 杜鵑花（サツキ）ナルヘシ草花ニハ 菊 水仙 鶏冠花 虎耳草（キジンサウーユキノシタ） 石竹（ナデシコ）檀（マユミ）特花ナルヘシ